



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

アポトーシス促進因子baxを用いたPTCA後再狭窄に対する遺伝子治療の可能性 -
バルーン障害後の内膜平滑筋細胞増殖に伴うintirnal hyperplasiaの予防 -

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 藤原, 久義 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/475

緒言

平滑筋細胞を中心とした intimal hyperplasia によりおこる PTCA 後再狭窄の予防は、循環器学の最大の課題の一つである。現在、有効な方法はなく、本研究のようにアポトーシスを誘導することによって再狭窄を予防するという試みはこれまでない。本書は、科学研究費補助金 [基盤研究 (B) (2)] 「アポトーシス促進因子 bax を用いた PTCA 後再狭窄に対する遺伝子治療の可能性- バルーン障害後の内膜平滑筋細胞増殖に伴う intimal hyperplasia の予防-」についての研究に関する総括的報告書である。

研究組織

研究代表者：藤原久義（岐阜大学医学部・教授）

研究分担者：岡野幸雄（岐阜大学医学部・教授）

竹村元三（岐阜大学医学部・講師）

研究経費

平成 11 年度 8,700 千円

平成 12 年度 5,400 千円

14,100 千円